

文化生活・教育常任委員会 議事次第

令和8年4月15日(水)

午後1時30分～

於：第4委員会室

1 開 会

2 所管事項の調査

「公立高校における地域と連携した教育の推進について」

参考人：一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム

代表理事 岩本 悠 氏

3 報告事項

4 そ の 他

5 閉 会

文化生活・教育常任委員会 出席要求理事者名簿 (4月15日)

【所管事項の調査】

【教育委員会】	
指導部長	相馬直子
高校教育課長	小西良尚
高校改革推進室参事	飯田俊樹

(計 3 名)

【報告事項】

【教育委員会】	
教育監兼学校危機管理監	山下俊彦
指導部長	相馬直子
学校教育課長	三矢哲郎

(計 3 名)

公立高校における地域と連携した教育の推進について

令和8年4月15日
京都府教育委員会

1 地域と連携した教育について

府立高校は、生徒にとっての学びの場であるとともに地域の活性化に寄与するなどの社会的役割も担っており、地域との連携・協働は大変重要である。

府教育委員会では、「第2期京都府教育振興プラン」（令和3年3月策定）において、地域とともにある学校づくりや社会の担い手として生きる力をはぐくむ教育を掲げるとともに、新しい時代において府立高校が目指すべき方向性や将来像を示した「府立高校の在り方ビジョン」（令和4年3月策定）に以下の目指す方向性を示し、地域や地元の企業、京都に所在する大学等と連携した教育を推進している。

【府立高校の在り方ビジョン 目指す方向性】

① 地域とのつながりを活かした教育活動の推進

- ・市町村や小・中学校のふるさと学習等との連携、地域の教育資源を活用したフィールドワーク等の体験活動、地域社会における課題や魅力に関わる探究的な学びなど、地域貢献や地域への愛着を深め、主体的に地域社会と関わる人材の育成に向けた取組を推進する。
- ・市町村との相互連携を進め、高校と地域の架け橋となるコーディネーターの配置など、地域と高校の結びつきを強める取組を充実させる。

② 企業等との連携による職業教育の充実

- ・企業や市町村など産官学による連携強化により、職業学科の学びをより充実・深化させ、即戦力として活躍できる若手プロフェッショナルの育成を目指す。

③ 高等教育機関等との連携・接続の強化

- ・府内の大学への興味・関心を喚起するとともに、大学や専修学校、研究機関等との連携を強化し、探究する力が身に付くように、一貫した授業カリキュラムの構築や生徒が最先端の研究や高度な探究学習に触れる機会を充実させる。
- ・各校で取り組んでいる国内外の大学との多様な高大連携事業の一層の充実を図る。さらに、大学教育の先取り履修による単位認定や高校卒業後の接続に係る仕組みづくりなど、各大学の専門性や特色等を活かした高大接続の強化策について、大学と連携して、協議・検討する。また、京都府立大学が進める「新生・京都府立大学」の実現に向けた改革と歩調を合わせ、高大連携を進めた先に、既設の府立高校を府立大学附属高校とする検討も進めていく。

2 府立高校における具体的な取組

各府立高校は、地域に根差した学校として、それぞれの地域の特色を活かした取組を進めている。「総合的な探究の時間」や「課題研究」といった授業時間において探究学習として取り組むことが多いが、「課外活動」として放課後に取り組んでいる学校もある。

○府立洛西高等学校（課外活動：放課後）

1年生全員が6つの班に分かれて、各班が1回ずつ、水田の害獣となっているジャンボタニシの駆除に取り組んでいる。地元農家、洛西支所まちづくり課、南部農業振興センターなどと協力して駆除作業に取り組み、駆除したジャンボタニシは、肥料として再利用するなど、環境問題について学ぶ機会ともなっている。

○府立亀岡高等学校（総合的な探究の時間）

探究学習において、生徒がいくつかのグループに分かれて、地元地域である亀岡市の魅力をアピールする動画制作に取り組んでいる。亀岡市の職員からアドバイスを受けながら企画を検討し、市内の旅館や商店などを訪問。インタビュー等を行いながら撮影し、「明智光秀だけじゃない！！亀岡の魅力～歴史編～」などのタイトルの動画を制作した。

○府立宮津天橋高等学校（課題研究）

建築科の生徒が、地元住民や小学生が利用しているバスの待合所のリニューアルに取り組んだ。地域住民の声を集めるとともに、地元の小学校を何度も訪問し、小学生と一緒に新しい待合所のデザインを検討した。決定したデザインに基づき、日ごろの学習の成果を発揮して、新しい待合所を完成させた。

3 今後の方向性

地域や企業、大学など、学校という枠を超えたつながりを深め、学校だけでは実現できない豊かな学びの環境を整えることで、これからの日本や京都の未来を担う人材の育成に取り組む。

○「人材育成」の4つの視点

- ・京都が有する知の集積とのつながりの深化
- ・京都の発展に貢献するマインドの育成
- ・グローバルな視座の獲得
- ・クリエイティブマインドの涵養

○国の「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」（令和8年2月）を踏まえつつ、独自の上記4つの視点を柱として、「高校教育改革実行計画（仮称）」を令和8年度中に策定

令和8年4月
文化・生活・教育常任委員会
報告事項

(教育委員会)

- 南丹市立小学校児童の行方不明事案について

南丹市立小学校児童の行方不明事案について

令和8年4月14日
(14時時点)
教育委員会

南丹市立小学校児童の行方不明事案について、下記のとおり報告します。

記

1 事案の概要

- ・当該児童 南丹市立園部小学校 6年 男子 (発生時5年)
安達 結希 (アダチ ユキ)
- ・発生日時 令和8年3月23日(月)午前中
- ・発生場所 南丹市立園部小学校付近

2 発生後の状況及び対応

- ・警察等の関係機関において捜索を実施
- ・4月13日(月)子どもとみられる遺体を発見

<学校の動き>

- ・4月6日(月)新6年生保護者対象の学校説明会を開催
- ・4月8日(水)始業式 新2年生から新6年生が登校(登校班で登校)
- ・4月9日(木)入学式 新1年生、新6年生が登校(新1年生は保護者と登校)
- ・4月10日(金)授業開始(新1年生から新6年生が登校班で登校)
- ・4月14日(火)臨時休業
- ・4月15日(水)通常授業を行い、給食後、保護者への引き渡しにより下校

<登下校の見守り>

4月8日(水)以降、警察・学校・南丹市教委・南丹教育局で実施

<スクールカウンセラー(以下「SC」)による支援>

- ・4月6日(月)緊急派遣のSCによる職員研修を実施(児童等への接し方や教職員の心のケアについて)
- ・4月9日(木)以降 学校配置のSC及び緊急派遣のSCによる児童及び教職員に対する心のケアを実施
- ・4月15日(水)SCを緊急派遣し、複数のSCで対応
- ・今後、必要が生じた場合は、さらにSCの緊急派遣等で支援

3 今後の対応

- ・南丹市教委と連携し、応援職員の派遣による学校運営の支援やSCの追加派遣による児童等の心のケアに当たる。